日本気象学会 2007 年度秋季大会シンポジウム

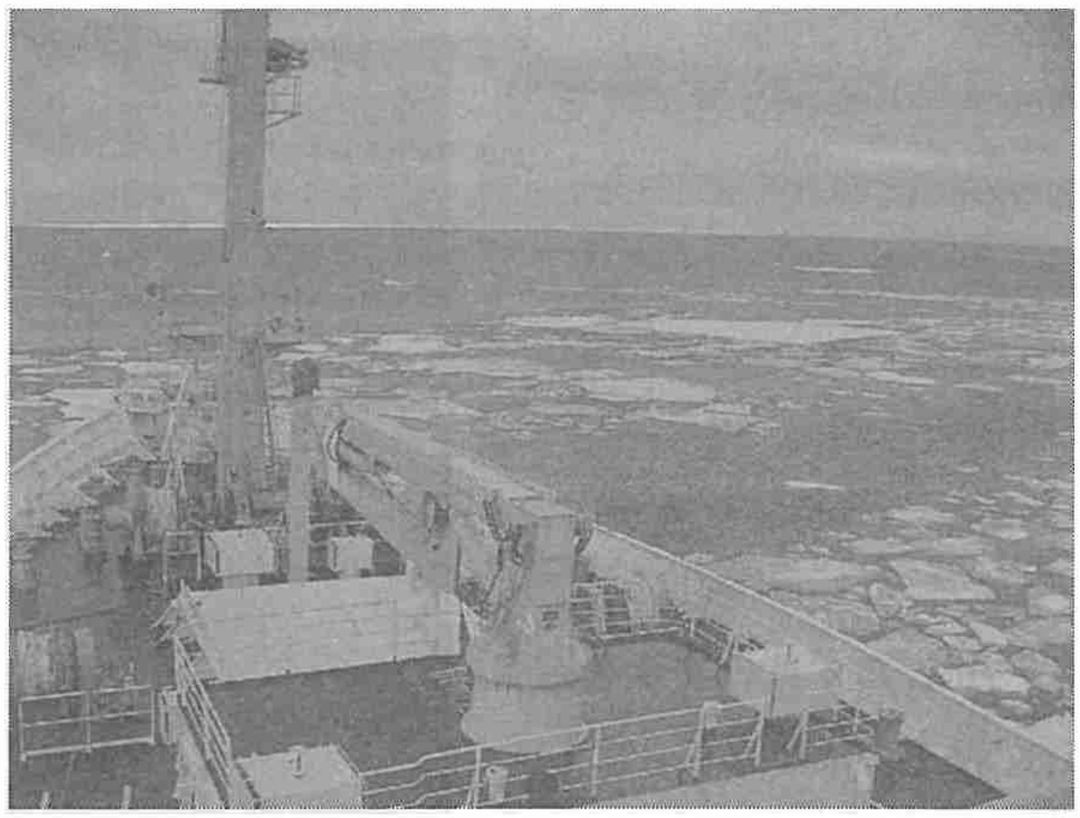
雪氷圏から語る気象と気候

日　時　2007年10月14日(日)14時00分～16時30分

場　所　北海道大学学術交流会館 講堂(A会場)

趣　旨

氷河の縮退や海氷面積の減少など、地球温暖化によって雪氷圏は大きく変動しつつある。雪氷圏の変動はアイス・アルベードフィードバックを通じて、温暖化を加速する可能性が指摘されている。アルベード変化には、雪氷面積の減少以外にも、雪氷表面の汚れや雪粒の大きさの変化も関与している。雪氷圏の変動は、気候への影響以外にも、水資源、凍土の融解にともなうメタンの放出など、その変動に付随する様々な影響を地球環境に及ぼす可能性がある。



写真；2004 年 9 月研究観測船「みらい」から撮影した北極海の海氷（藤吉康志氏提供）

このような背景から、2000 年から WCRP のコアプロジェクトの一つとして雪氷圏と気候に関する研究計画 (CliC: The Climate and Cryosphere)が始まっている。そこで、本シンポジウムでは「雪氷圏から語る気象と気候」をテーマとして、ミクロな放射過程・北海道の農業・環オホーツク・ユーラシア・地球温暖化と様々な切り口で雪氷圏と気候の問題を語りたい。

基調講演

大気エーロゾルの沈着が積雪アルベドに与える影響
　　青木　輝夫　（気象研究所物理気象研究部第三研究室）

北海道・道東地方の土壌凍結深の減少傾向および農業への影響
　　広田　知良　（北海道農業研究センター）

北ユーラシアにおける雪氷圏変動と気候
　　大畑　哲夫　（地球環境観測研究センター）

環オホーツク圏領域気候モデル
　　三寺　史夫 ・ 中村　知裕
　　（北海道大学低温科学研究所　環オホーツク観測研究センター）

温暖化シミュレーションに見る雪氷と気候
　　保坂　征宏　（気象研究所気候研究部第一研究室）

司　会　藤吉 康志（北海道大学低温科学研究所）